A scenic view of a rural Japanese village. In the foreground, there is a field of tall green grass. In the middle ground, a train with a yellow and orange front is visible on a track. Behind the train, there are several traditional Japanese houses with dark roofs. In the background, there are rolling green hills and mountains under a blue sky with large white clouds.

令和5年度
神保地区における身近な拠点づくり社会実験
事業報告

社会実験の概要

(1) 社会実験の目的

買い物などの生活機能やアクセスするための移動手段、住民同士の交流など、暮らしに必要な機能について、地域と行政が連携しながら、地区センターを身近な拠点として位置づけた社会実験を通し、郊外部での持続可能なまちづくりの在り方を検討することを目的とする。

(2) 実施体制

神保地区身近な拠点づくり社会実験実行委員会

【構成メンバー】

神保地区自治振興会、神保地区社会福祉協議会、神保地区ふるさとづくり推進協議会
Honda Cars 富山婦中店、とやま生協(富山みなみ店)、アルビス株式会社移動販売事業部
神保地区センター、スマートシティ推進課、都市計画課

(3) 社会実験の開催日時

【第1回】令和5年 9月22日(金) 14~17時

【第2回】令和5年10月 1日(日) 11~14時

【第3回】令和5年10月21日(土) 14~17時

【第4回】令和5年11月 2日(木) 14~17時

(4) 社会実験の開催内容

HP内のチラシ参照



社会実験の概要

(5) 周辺環境



社会実験の様子



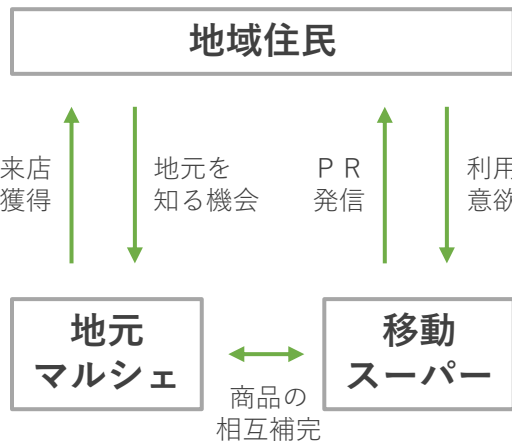
- 地域団体が行った小学生へのアンケートで「近くにあったらいいお店」の1位となった駄菓子屋をふるさとづくり推進協議会内の活性化委員会が中心となって出店。
- 屋台は富山大学芸術文化学部藪谷研究室の学生がデザイン・設計をし、地元の工務店の協力のもと製作した。
- 地域内にある仕出し屋や飲食店、地域で育った農産物、神保にゆかりのある方々のポップアップショップなどが屋台となって出店。
- 地域団体や公民館主事が主体となって出店への声掛けを行い、“じじマルシェ”と名付けて、品揃えや搬入などの調整、SNSなどでの発信を行った。



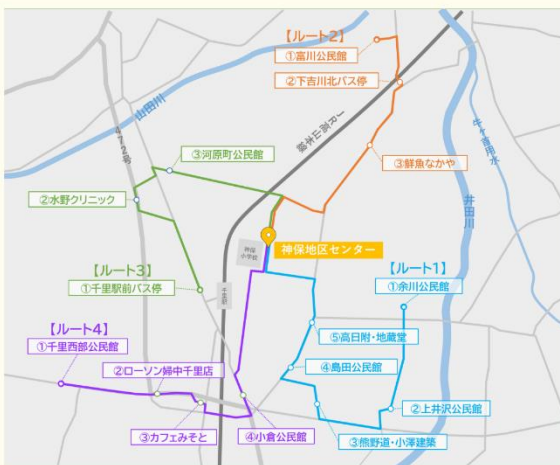
社会実験の様子



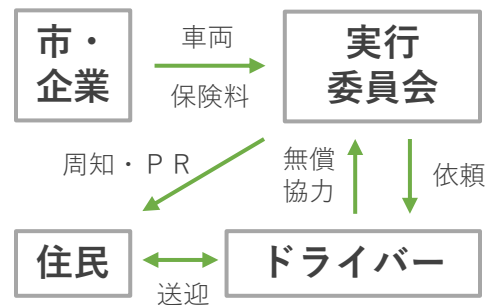
- とやま生協とアルビス株式会社 移動販売事業部による移動スーパーが出店。
- じじマルシェで不足する精肉や日用雑貨などの商品を並べ、多様な買い物ニーズに応えられるよう形とした。
- Honda Cars 富山のご協力により、電動車いす型の次世代モビリティ「WHILL」(ウィル)の乗車体験会を実施。
- 高齢者の新たな移動手段として実際に体験しながら知っていただく機会となった。



社会実験の様子



- Honda Cars 富山婦中店より、乗用車の無償提供をいただき、市の公用車と合わせた2台体制で地域内の移動手段を確保。
- ドライバーは地域住民が行い、車両保険料は損保ジャパンが提供する地域ボランティア送迎用の保険制度を活用し、市が負担した。
- 送迎ルートは、第1回・第2回は地区センターを中心に地域内を往復する4ルートを設定し、第3回・第4回は地区センターを窓口にして、デマンド方式(事前予約)による送迎を実施。
- ドライバーは自治振興会から声をかけていただき、また、近隣のサービス付き高齢者向け住宅にお住まいの方も介助職員の送迎で来場した。



社会実験の様子



- 地区センター内の調理室を使い、食生活改善委員のみなさんが「食生活を見直そう」と題し、予防食の提供やレシピの展示などを行った。
- 地域にお住まいの子育て世帯を対象に、西保健福祉センターと保健推進委員の協力のもと、和室では、手形アートやフォトブース、臨時託児所などの「子育てサロン」を実施。
- 市による依頼のもと、ケーブルテレビ富山による高齢者向け「スマホ教室」を実施し、LINEなどのスマホの基本的な使い方を学ぶ初心者教室に始まり、ネットスーパーの使い方を学ぶまでの講座を行った。

住民

↑ 多世代交流の促進

地区センターの有効活用

各主体の持つ得意分野 ↑ ↓ 諸室の無償提供

企業

地域団体

市

社会実験の様子



- 西保健福祉センターからの協力依頼により、明治安田生命による「健康チェック」を実施し、血圧や体脂肪、脳年齢などの検診、保健師などによる健康相談を行った。
- 婦中西地域包括支援センターによる「認知症の接し方」を学ぶ寸劇が行われ、子供からお年寄りまでが観劇した。
- 市内で活動するヨガインストラクターによる「親子でヨガ教室」が屋外で行われ、親子の触れ合いづくりと健康づくりの機会となった。



社会実験の分析

(1) 来場者数・ボランティア送迎利用者数

- ・ 毎回200～300名程度の住民が来場
- ・ 延べ30名がボランティア送迎を利用

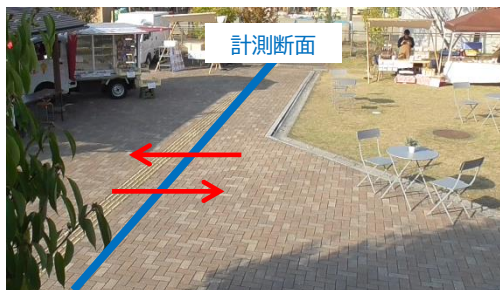
(2) 交流事業の利用者数

- ・ 子育てサロン:延べ53名
- ・ 健康チェック:延べ52名
- ・ スマホ教室:延べ11名
- ・ 食生活を見直そう:提供食数132食

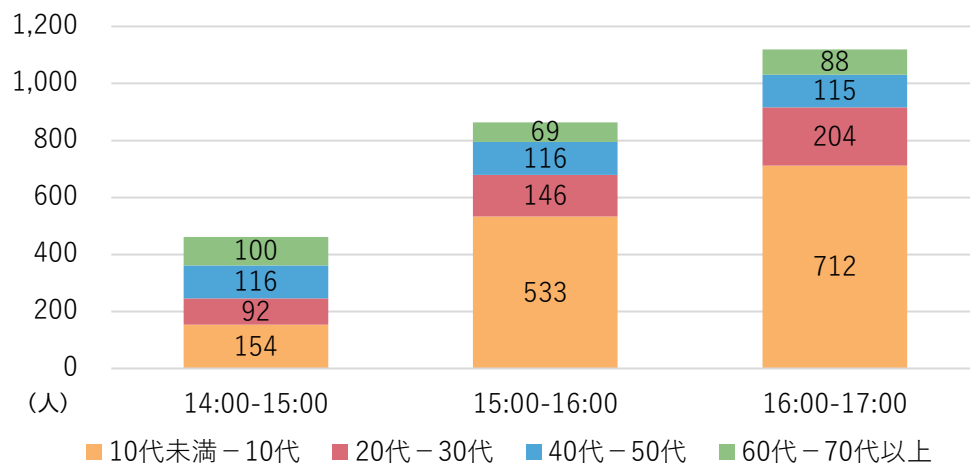


(3) 会場内の人流測定

会場には継続的に多様な世代が来場し、学校の下校に合わせて、子どもたちの来場が増加した。



計測日：11/2
映像をAI解析



社会実験の分析

(4) 来場者及びボランティア送迎利用者に対する調査

◆来場者に対する満足度シール投票及び自由意見

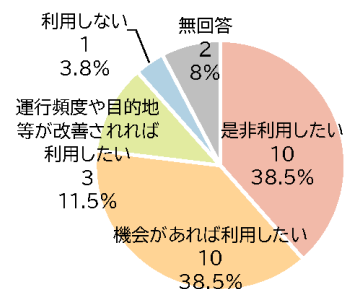
- 投票したすべての方が社会実験に「満足した」・「今後も続けてほしい」と回答
- 自由意見では、「買い物も出来てうれしい」、「子供と年輩の方が交流できることはとても良いと思う」といった良かった点への意見がある一方で、「周知をしてほしい、知らなかった」、「駐車場が少し足りない」といった意見もあった。



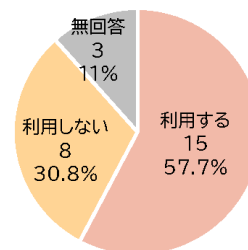
◆ボランティア送迎利用者へのアンケート調査

- ボランティア送迎利用者へのアンケート調査では、身近な拠点づくりが地域で継続された場合でも、約75%の方がボランティア送迎を継続利用したいと回答。
- ガソリン代相当を負担いただく場合においても、約60%の方が利用すると回答。

継続的に本取組みを続けた場合も利用しますか？



有料送迎となった場合も引き続き利用しますか？



社会実験の分析

(5) 関係者ヒアリング調査

- 参加者だけでなく、地域内店舗やマルシェ出店者同士のつながりができるなど、新しい交流の場となった一方、高齢者に向けた情報発信や移動手段の確保等について改善を求める意見があった。
- また、今回の社会実験を通し、地域の中で協力してくれるボランティアの存在を再認識でき、継続的に実施していくためには、人を集める活動や経済的な資源や支援が必要であるとの意見もあった。

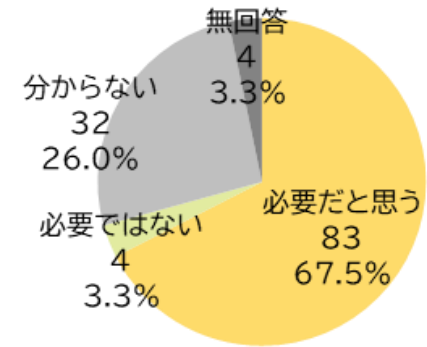
区分	対象	団体名
運営	全体	神保地区自治振興会(3会長)
		地区センター・公民館
買い物	じじじマルシェ	出店者
	移動販売	アルビス(株)移動販売事業部、とやま生協
移動	ボランティア送迎	ボランティア運転手
	ボランティア送迎車両・次世代モビリティ	Honda Cars 富山婦中店
交流	神保・仲間づくり&子育てサロン	西保健福祉センター(保健推進員)
	自分からだチェック	西保健福祉センター
	スマホ教室	ケーブルテレビ富山
	食生活を見直そう	西保健福祉センター(食生活改善推進員)
	折り紙教室・けん玉教室	神保児童館
	認知症の接し方について	婦中西地域包括支援センター
その他	近隣施設	じんぼ保育園

社会実験の分析

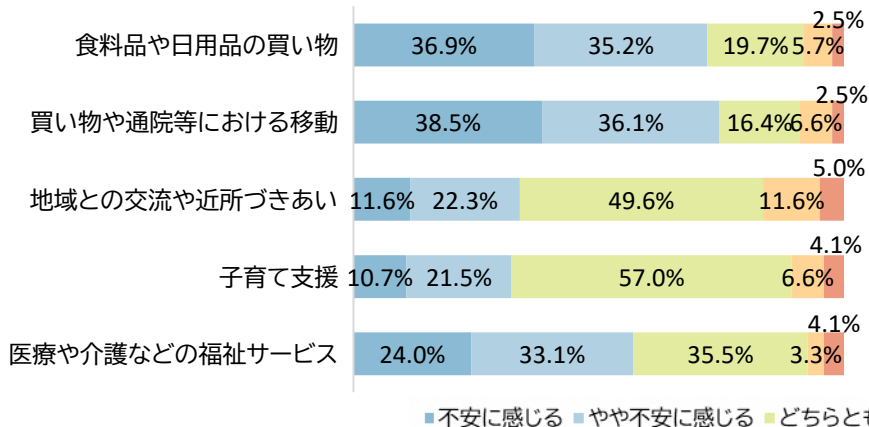
(6) 事後アンケート調査

- 地域内の町内会長や班長、PTA役員などを対象に行った事後アンケートでは、約7割が本事業のように、地域による支え合いの取組みが必要と回答。
- 人口減少が進む中で、将来の不安な生活行動として、「買い物」・「移動」・「医療福祉」が挙げられているが、地区センター等が身近な拠点として機能した場合には、将来への不安が低減される結果となった。

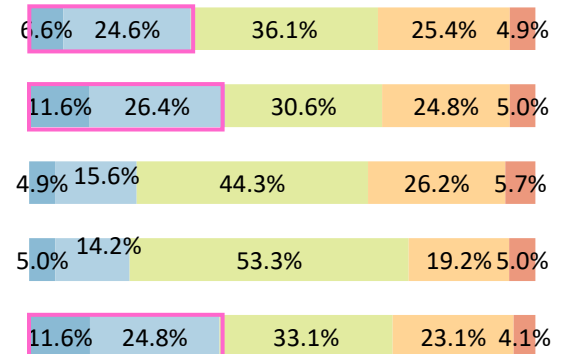
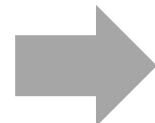
今後も本事業のように地域が支え合う取組みは必要だと思いますか？



今後、人口減少が進む中で、将来の日常生活における不安はどのようなことですか？



将来、暮らしに必要な機能を備えた身近な拠点が実現した場合、あなたは日常生活に対してどのように感じますか？



■不安を感じる ■やや不安を感じる ■どちらともいえない ■あまり不安ではない ■不安ではない



2024.4月作成

作成：富山市都市計画課